

青森県の伝統技法を用いたメダル制作

—地域伝統芸能大賞を事例とした異種素材による工芸デザイン—

The medal made using the tradition technique of Aomori Prefecture
-The technical design by a different-species material was performed
by making “Chiiki-Dento-Geino-Taisho” into an example.-

山形 藍、館山 大、伊藤 健、小松 勇、工藤洋司、長谷川和世
中居久明*、木村正人*2、新岡恭治*3、村上あさ子*4

(*八戸地域研究所 *2木村漆工房 *3(有)二唐刃物鍛造所 *4テキスタイルスタジオ村上)

(財)地域伝統芸能活用センターは、全国各地に伝わるお祭り等の地域伝統芸能を活用し、地域の観光促進や商工業の振興を図ることを目的に様々な活動を展開している。

活動の一環として、同センターでは、「高円宮殿下記念地域伝統芸能賞」「地域伝統芸能大賞」「地域伝統芸能奨励賞」を選定し、団体又は個人を顕彰する事業を行っている。表彰式と一緒に行われる「地域伝統芸能全国フェスティバル」(通称「日本の祭り」)は、毎年場所を変えて全国各地で開催されており、本年度は青森が開催地となっていた。

各賞のメダルは、開催県の風土伝統が反映されたものとなっており、各自治体が毎回独自のものを制作している。

弘前地域研究所では伝統工芸の支援を行っており、且つメダル制作の実績もあることから、県の窓口である観光国際戦略局 観光交流推進課からメダル制作の依頼を受け、「地域伝統芸能大賞等表彰式」に授与される記念メダルのデザイン・設計及びプロデュースを行った。

青森県の伝統工芸である「津軽塗」「打刃物」「裂織」の技術を盛り込んだメダルを制作し、「地域伝統芸能大賞等表彰式」において各受賞団体、及び受賞者に授与された。

